

「宿泊自然教室（5年生）！」



10月6日～7日、5年生の宿泊自然教室を実施しました。すっかり秋の空気に入れ替わった北山の空は、青く澄み渡っていました。一日目の活動のメインは、九州百名山の一座、井原山登山。前日の雨のお陰で南は有明海、雲仙、北は博多湾と素晴らしい眺望でした。

しかし、その眺望以上に美しかったのが、子供たちの助け合う姿。「もう少しで頂上だよ」「がんばれ、ガンバレ、頑張れ…」と呼び合う声。数日経った今でも、その姿が臉に浮かび、その声が蘇ってきます。また、夕食後にキャンドルの集いを実施しましたが、子供たちの出し物の素晴らしかったこと素晴らしかったこと。今まで見てきた出し物の中でも最高のクオリティーでした。



宿泊自然教室に行くと、“人は協力していかないと生きていけない”ということ、身をもって体験することができます。そんな時、ふと思い出すのはこんな話。

私達の祖先は、他のヒト属が滅びてしまう中、唯一遺伝子を繋ぎ続けてきたのだそうです。その最大の理由は、進化の過程で、「助けよう」「協力しよう」「分かち合いたい」という心情と能力を身に付けたからなのだそうです。私たちが、今ここに生きていることは、奇跡的で素晴らしいことだと改めて感じるとともに、中部小の子供たちの優しさや逞しさを実感できた2日間でした。

火の長の言葉を借りて！

自然教室最大のメニューが“キャンドルの集い”その折の役目として、火の長の言葉があります。火の長の役目を通し、子供たちに伝えたことが、以下のこと！

（間もなく集いを終えるタイミングで）

「さあ、今ここに燃え残る1本の灯火を見るがいい。あれほど燃え盛っていた炎も、今では小さな灯火となった。暗闇に一筋の光を与え、自分の身を細らせ燃やし、そなた等に、光と安らぎを与えてくれたのじゃ。覚えておくが良い。そなた達も、この灯火のように、自分の身を燃やしても、人のため≠友のために役立つ、そんな人生を送るのだ。」（後略）

子供たちの純粋な心にどう響いたか。その答えは、数年後に返ってくるのでしょうか。子供たちの成長と活躍を祈って止みません(*^o^*)。

実りの秋、各種表彰パート1！

～よく頑張ったね、おめでとう～

☆理科作品展

【神埼地区入選】

- 3年 田中八重「温度調べ」
- 4年 仁井左喬「色の温度ランキング」
- 5年 副島 凜「打ち水の効果ってあるの？」
※佐賀県理科研究発表会 地区代表発表者
- 6年 小柳柚子「やりたくなる ルービックキューブ攻略法」

【佐賀県奨励賞】

- 4年 吉田美沙「ヘロンのふん水」を
作ってみた



